

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

- ☆最初のISS構成要素打上げから2475日経過しました
- ☆第11次長期滞在クルーのISS滞在は136日経過しました
- ☆ISS動向

第11次長期滞在クルーのセルゲイ・クリカレフとジョン・フィリップス両宇宙飛行士は、ディスカバリー号で届けられた物資の荷解きを終え、開梱した物資を在庫管理システムに登録し終わりました。

また、ISS内の不要品をズヴェズダ(ロシアのサービスモジュール)にドッキングしているプログレス補給船(18P)に積み込みました。18Pは9月7日午後7時23分にISSから分離し、太平洋上空の大気圏に突入する予定です。新しいプログレス補給船(19P)は、9月8日午後10時8分にカザフスタン共和国のバイコヌール宇宙基地から打ち上げられ、9月10日に2.5トン以上の食料、推進剤、酸素、水、予備機器類をISSに届ける予定です。

なお、クリカレフ宇宙飛行士は、8月11日から停止していたロシアの二酸化炭素除去装置(Vozdukh)の真空バルブの修理を行い復旧させました。Vozdukhが停止している間は、米国の二酸化炭素除去装置(CDRA)を使用していたため、ISSの運用に問題はありませんでした。



クリカレフ宇宙飛行士



ISSから撮影したマッキンレー山(アラスカ)
航空写真の様にみえますが、クルーが800mmの望遠レンズ付きデジタル1眼レフで撮影したものです。

“スペースシャトル最新状況”

3機のスペースシャトルは次の飛行に向けて整備が行われています。

■ディスカバリー号

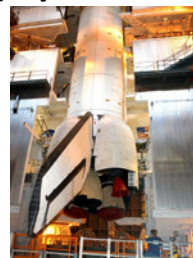
ディスカバリー号は、米国時間8月21日にケネディ宇宙センター(KSC)へ到着した後、オービタ整備施設(OPF)に格納され、同8月24日にペイロードベイ(貨物室)のドアが開けられました。ペイロードベイにはISSから持ち帰った実験試料や不要品を満載した多目的補給モジュール(MPLM)と、交換されたコントロール・モーメント・ジャイロ(CMG)等が搭載されていました。



ペイロードベイを開いたディスカバリー号

■アトランティス号

アトランティス号は、外部燃料タンク(ET-120)と固体ロケットブースタ(SRB)が取り付けられた状態でKSCのスペースシャトル組立棟(VAB)に格納されています。現在ET-120の切り離し準備中です。ET-120は試験のためニューオーリンズ州ミシュ組立工場に送り返されます。SRBはサイアコール社に送り返され再組み立てとなります。



VABに格納されているアトランティス号

■エンデバー号

エンデバー号は2003年12月からオービタ改修期間中です。



OPF内のエンデバー号

“トピック”

☆第2回航空機による無重力実験コンテスト成果報告会開催

8月29日に第2回航空機による無重力実験コンテスト成果報告会が、(財)日本宇宙フォーラムにて開催されました。航空機を放物線飛行(パラボリックフライト)させることで得られる数十秒間の無重量環境を利用するこの学生実験は、2004年12月および2005年2,3月に行われ、実験を行った以下の6チームの学生から実験装置開発の苦労や工夫、実験結果など成果報告が行われました。会場からは質問があふれ、活発な質疑応答が行われました。成果報告会の様子は当ホームページで紹介する予定です。



成果報告会の様子

- ・東京大学航空機実験2004【微小重力下での磁性流体を用いた磁界解析実験】
- ・岐阜大学医学部・福井大学医学部合同研究チーム【重力変化時の血圧調節における前庭系のはたらき】
- ・スペースアート会議(東京芸術大学)【Sound Wave Sculpture II】
- ・日本女子大学大学院多屋研究室【「国際宇宙ステーションで着る新しい機能を持つ衣服設計のための実験」～微小重力環境下の水分移動挙動と形状変化～】
- ・学習院大学理学部線香花火研究会【微小重力環境における線香花火の火花の飛び方】
- ・日比谷研(首都大学東京)【ミルククラウン形成に及ぼす重力加速度の影響】

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール kibo-pao@jaxa.jp

ウィークリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。